

勝俣電事連会長 定例会見要旨
(2007年1月26日)

本日私からは、「電力業界の今年の重点課題」と、「年末年始の電力需給」の2点について申し上げたいと思います。

1. 「電力業界の今年の重点課題」

まず、今年の重点課題について申しあげます。

私ども電力業界では、今年一年、これから申しあげる3点に重点を置いて、業界を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

(データ改ざん問題)

一点目は、昨年末に複数の会社において明らかになった、発電所における過去の手続きの不備やデータ改ざん等について、しっかりと点検・調査を行い、膿を出し切ることであります。

皆さまご案内のとおり、一昨日、電力各社は、12/20に公表した水力発電設備に関する手続きの不備やデータ改ざんなどの事例について、事実関係、原因究明と再発防止策等をまとめ、国土交通省と原子力安全・保安院に提出いたしました。

地元をはじめ社会の皆さまにご心配をおかけし、皆さまの信頼を損う結果となりましたこと、改めて深くお詫び申しあげます。

今後しっかりと原因究明を行い、再発防止策を徹底してまいる所存でありますので、よろしくご理解をお願い申し上げます。

(再処理工場本格稼働)

重点課題の二点目は、日本原燃の六ヶ所再処理工場の本格稼働に向けて、日本原燃とともに総力を挙げて取り組むことでもあります。

今年は本格操業に向けてまさに正念場の年であります。もちろんスケジュールありきではありませんが、安全と品質確保を最優先に、六ヶ所村や青森県の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、操業に向けて取り組んでまいり所存です。

さらには、プルサーマルの推進、MOX 燃料加工工場の着工、NUMO が取り組んでいる高レベル放射性廃棄物の最終処分地選定など、この一年、前進させるべき数々の重要課題が控えており、ひとつずつ着実に進めてまいりたいと考えております。

(全面自由化など次期電気事業制度の検討開始)

重点課題の三点目は、春頃から始まる電力市場の全面自由化など次期電気事業制度改革の議論への対応であります。

ご案内のとおり、自由化は、現在、高圧のお客さままで対象が拡がり、例えば東京電力ではこれまでに約 2,100 軒、250 万 kW のお客さまが離脱するなど、PPS の顧客は年々増加しております。

また厳しい競争化での効率化努力によって、各社ともに料金水準は着実に低下しており、安定供給や環境への適合などの課題を考慮しながら、競争原理を導入して、お客さまの利益、ひいてはわが国全体の利益の増進を図るという日本型の自由化の目的は着実に実現しつつあると考えております。

そうした中で、今年の春頃から全面自由化を含む次期制度改革についての議論が始まります。

先日、「経済産業省が家庭用の電力自由化を先送りすることを決めた」という旨の報道がありました。

私どもは、そうした事実はないと認識しておりますが、いずれにせよ、今回の議論においては、そうした結論ありき、予断や予見を持った議論はすべきではないと考えます。

そのためにも、これから始まる議論の中では、エネルギーを取り巻く諸情勢や自由化で先行している欧米などの事例等をしっかりとレビューするとともに、ご家庭のお客さまをはじめ産業界や識者の方々など、各界・各層の意見をできる限り伺って、幅広い観点から十分な議論を尽くし、コンセンサスを作っていくことが重要と考えております。

以上、今年の重点課題 3 点について申しあげましたが、私ども電力業界では、これらのほか、地球温暖化問題への対応をはじめ様々な案件や課題が山積しておりますが、解決に向けて業界を挙げて取り組んでまいり所存です。

2. 年末年始の電力需給について

次に、このたびの年末年始（12/29～1/4）の電力需給についてご報告いたします。お手許の資料をご覧ください。

年末年始は、ゴールデンウィークとともに1年のうちで電力需要が最も減少する期間です。

資料の左側下段の表をご覧ください。

まず12/29～1/4の10社の「最大電力の最低値」、これは10社の最大電力が最も低かった日の値ですが、1/1の19時に記録した9,698万kWで、前年度に比べて1.3%の減少となりました。

また、「最小電力の最低値」、これは10社の電力需要が最も小さかった時の値で、1/2の早朝6時に記録した7,145万kWで、前年度に比べて0.4%の減少となりました。

いずれの記録も昨年度を下回ったのは、今年の年始の気温が平年に比べてかなり高めであった影響と思われる。

また、資料の右上の折れ線グラフをご覧ください。青線のグラフは、年末年始の「最小電力の最低値」の至近 10 年間の推移を表したもので、年々増加傾向にあることがわかります。

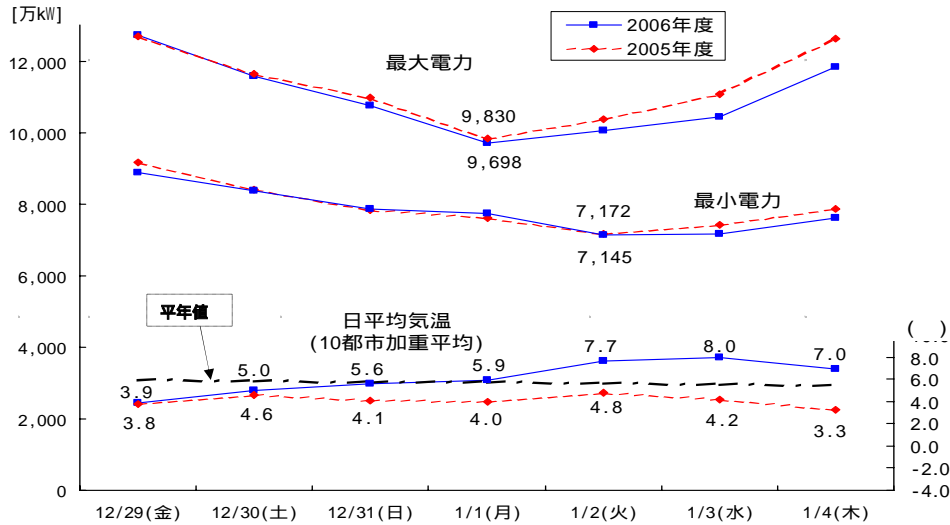
10 社の夏の最大電力が平成 13 年以降更新をしていない一方で、ベース需要である「最小電力の最低値」が伸びてきているのは、資料右下のグラフにあるように、エアコンを始めとして暖房用としての電力利用の拡大や、温水洗浄便座などの機器の普及、あるいは 24 時間営業のコンビニやオール電化住宅の増加などが影響しているのではないかと考えております。

私からは以上です。

年末年始の需給状況について

年末は一時的な強い冬の気圧配置の影響で日本海側を中心に荒天となり、全国的に平年を下回る気温となったものの、年始には冬の気圧配置も緩み、特に2日から3日にかけては全国的に平年を大きく上回る気温となりました。需給面では、ほぼ平穩裡に経過し、安定供給を確保することができました。

1. 最大・最小電力の実績および日平均気温(10社計)



電力需要は、年始における高めの気温の影響を受け、最大電力、最小電力ならびに電力量共に前年を下回った。

需要実績(発電端)

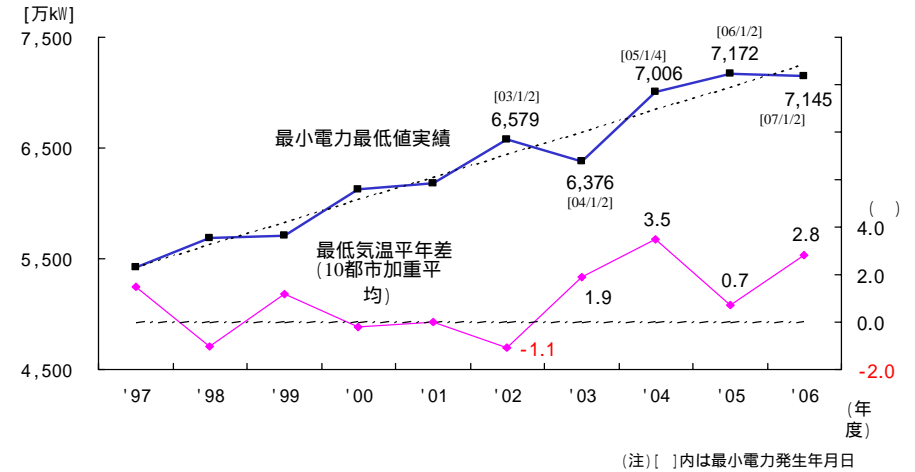
[単位: 万kW、万kWh、%]

		発生日時	実績	前年比
最低値	最大電力	1月1日 19時	9,698	(98.7)
	最小電力	1月2日 6時	7,145	(99.6)
	日電力量	1月1日	20億7,998	(99.4)
累計電力量		12月29日～1月3日	135億1,273	(97.8)

・気温(10都市加重平均)

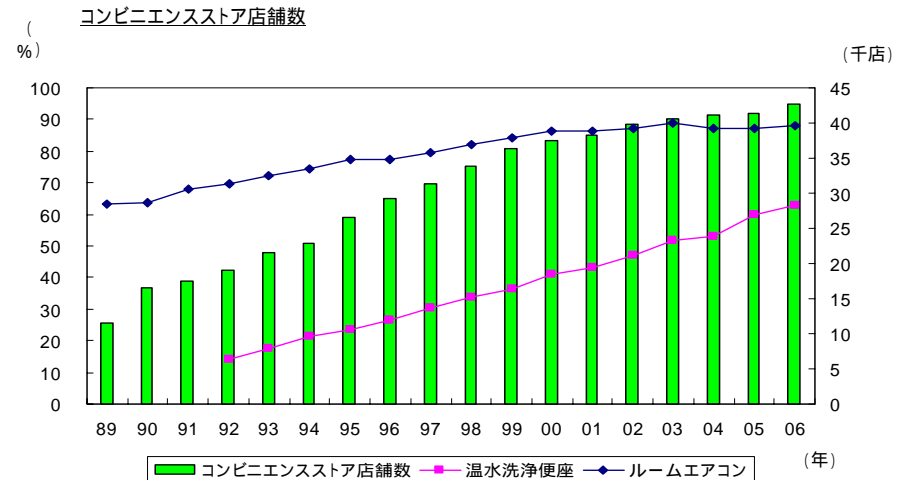
1/1 日平均気温: 5.9	(前年差: +1.9 ・ 平年差: +0.2)
1/2 日平均気温: 7.7	(前年差: +2.9 ・ 平年差: +2.1)
12/29～1/3 日平均気温の平均: 6.0	(前年差: +1.7 ・ 平年差: +0.3)

2. 最小電力の推移



(注) []内は最小電力発生年月日

[参考] 主要耐久消費財(温水洗浄便座およびルームエアコン)の普及率(全世界)



(注1) 数値は各年の3月末時点のもの

(出所) 内閣府「消費動向調査」

(社) 日本フランチャイズチェーン協会「JFAフランチャイズチェーン統計調査」